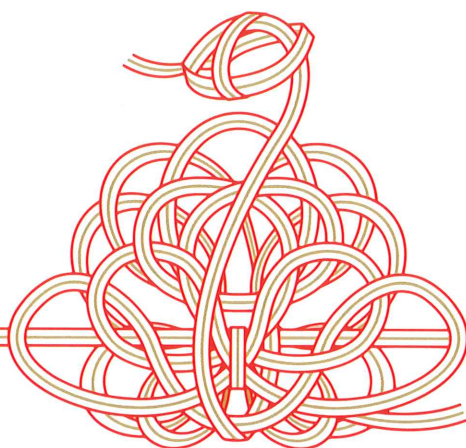




Vol.

57

やさし^さの郷



ケーキを作る安達寿子様 (となりの赤ちゃんは長男 安達満さん)

令和七年 新年の挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は、やすらぎの郷の運営に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、令和6年度は施設内でコロナ感染があり、「家族懇談会」をやむなく延期いたしました。その後、時期を改め開催し大勢のご家族様にご参加いただきました。

また、「敬老の集い」にもご家族様をお招きすることができ、優しい時間が流れる和やかな雰囲気の中で開催することができました。しかし、面会につきましては全面解除できず、皆様にはご迷惑をお掛けしております。面会時間が短く「あっという間に終わった」と名残惜しそうな皆様のお姿を拝見しますと、私どもも大変心苦しいところでございますが、ご家族様の会いたい気持ちに少しずつですが、応えられるようになり、ようやくコロナ以前のやすらぎの郷に戻りつつあると嬉しく思っております。

今後も面会につきましては、インフルエンザ等の感染症の市中の流行状況を見定め、柔軟に対応してまいりますので、安心で安全な施設運営のため、ご理解ご協力をお願いいたします。

やすらぎの郷は、ご家族様や地域の方々、ボランティアの方々に見守られ、皆様から信頼される施設であり続けるよう努力する所存でございますので、引き続きご支援ご協力の程、よろしくお願いいたします。本年が皆様にとって輝かしい一年となりますよう、ご祈念申し上げ新年の挨拶といたします。



園長 荒木 ひとみ

Respectively

それぞれの物語

Story
家族インタビュー

Respectively Story

やすらぎの郷は人の想いを支えます



安達寿子様のご家族
(長男 安達満さん)に
お話を伺いました。



満さんは、やすらぎの郷設立時から当施設の居宅部門の相談員、ケアマネージャーとして勤務され、現在もケアハウス相談員として働いています。

①寿子様の生い立ち



満州の大連で4人姉弟の長女として産まれましたが、当時は戦時中だったため、幼少の時に宮崎県高千穂に引っ越しをされたそうです。高千穂では、寿子様の父がマンガン鉱山で鉱業を営んで生計を立て、その後、臼杵の鉱山を買い取り、臼杵に移り住みました。臼杵高校に通い、そこで旦那様と

運命的な出会いの末、付き合うことになったそうです。高校卒業後寿子さんは青山女子短期大学に、旦那様は九州大学へ進学。大学卒業後は臼杵に戻り、地



元の高校で家庭科の教師となったそうですが、可憐で品が溢れていたことから、生徒や教師からも一目置かれる存在だったようです。大恋愛の末27歳で結婚し、子供も3人産まれ、長男の満様が10歳の時に志免町に引っ越してきました。

②寿子様はどのような母親でしたか？



とても穏やかな性格でしたが、活発で人の悪口などはいっさい言わない母でした。また、社交的でPTA活動やバレーボールなど色々な活動に参加し、いつも「ありがとう」と感謝を忘れず、人との繋がりをとても大切にしていたため、

友達も多く周りから愛されていました。子供たちにも愛情深く、いつも自分の事より子供を優先する母で、あまり怒られた記憶がありません。どんな人生を歩むのが良いのか、より良く生きるというのは何なのか、人とはどう生きるべきか？という最終形の回答を母から貰った気がします。



③在宅での介護の日々

父が77歳で脳梗塞による片麻痺となり、母が父の介護をするようになりましたが、介護をしていて腰椎圧迫骨折を発症し、母が入院してしまいました。その頃から認知症の症状が進行しだしていた気がします。朝起きると朝ご飯をたくさん作り、「朝なのに子供達はどこに行ったの？」、夕方には私に電話があり、「子供たちはいつ帰ってくるの？」と言うことが増えてきました。宅配のお弁当を頼んでいたのですが、お弁当を食べずに、冷蔵庫の中やレンジの中がお弁当でいっぱいになっていたことがありました。それからは、朝仕事前に妻が作ってくれたお弁当を届け、夕方仕事が終わった後にもう一度家に行き、ご飯と薬の確認をするという生活が一年以上続きました。当時父はショートステイも利用していましたが、両親の介護が続き、その頃が精神的・体力的にも私の負担が一番重かったように思います。ただ、母は認知症の症状も進んでいましたが、いつも子供の



事を考えているのが伝わっていたので、その時期を乗り越えることが出来たのだと思います。また今もそうですが、介護に対しては妻が大変協力してくれました。

④特養に入所するまで

3年前に父が亡くなったのですが、それから一年余り過ぎた頃、自宅で腰が痛くなり動けなくなりました。その頃はやすらぎの郷のデイサービスを利用中でしたが、動けなくなったことから自宅での生活が難しく、ショートステイも利用することになりました。ありがたいことに、母はショートステイでの生活を嫌がることもなく、すんなりと馴染んでくれました。家に帰ってきても、「学校は大丈夫？」「みんなの所に帰らないと」などと言っていて、ショートステイを学校だと思って楽しんでいた様子でした。その後、ショートステイを経て、入所する流れとなりました。

⑤母が入所して思うこと

スタッフの何気ない優しい一言は、家族にとってものすごくありがたく、とても助けになっています。自分がこの仕事をしていて本当に良かったと感じました。

自分が働いている施設に、自分の親を入れようと思える施設が、理想の施設だと思っています。理想と現実はもちろん差が生じるし、預ける身としては恥ずかしいなどの気持ちがあるけれど、自分が知っているスタッフがいる施設がやはり安心できるし、皆も自信を持って自分の親を入れて欲しいと思います。今の母は、特に何をするでもないけれど、本人にとっては穏やかな良い時間を過ごしているように感じています。やすらぎの郷で看取りまで過ごして欲しい。スタッフの皆さんには感謝ありません。



インタビューを終えて

施設でもいつもニコニコされ、穏やかで上品な寿子様。お話を聞きながら、寿子様のおおらかな性格や優しさ、深い愛情がひしひしと伝わってきました。また、満さんのスタッフに対する率直な気持ち、同じ施設で働いているからこそ見える評価、を聞くことができ、やすらぎの郷で働いて良かったと思いました。これからも、笑顔を絶やさず安心して過ごせる施設を目指し、スタッフ一同頑張っていきたいです。

『西棟介護職員 野中将司』



MITORIKAIGO 看取り介護 について

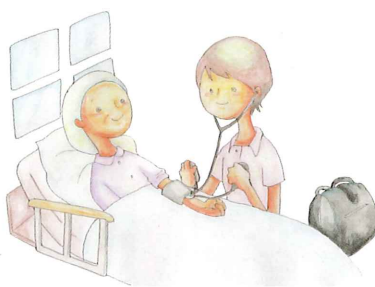
やすらぎの郷における看取り介護の取組について報告いたします。やすらぎの郷では平成30年9月より看取り介護検討委員会を立ち上げ他施設への見学、研修会への参加、協力病院であるうへの病院との調整、また職員への周知等を経て平成31年4月より看取り介護の体制を整えました。

職員一同、不安な面がありながらの開始でしたが、開始から6年たち72名の方を看取らせていただきました。その中で看取り介護とは、普段の介護の延長線上であり、特別なことではないということなど多くのことを学ばせていただきました。

ある職員は「死は怖いものと思っていたが、実際立ち会うと皆さん穏やかに最期を迎えられると分かった。ご家族との顔を合わす回数も多くなり、いい関係が築けるようになったと思います」と振り返っていました。

また、実際に看取り介護で退所されたご家族からは、「住み慣れた場所、顔見知りの職員さんの中で最期を迎えられ良かった。母も安心していたと思います。最期は面会も多くできたし、やすらぎの郷でよかった」との声も聞かれました。

やすらぎの郷は、これからも皆さまの期待に応えられるよう介護の向上に努めたいと思います。



敬老の集い

令和6年9月16日（月曜）に敬老の集いを開催いたしました。

今年度は敬老の表彰の対象となるご利用者のご家族をお招きいたしました。

特別養護老人ホームご利用者、ケアハウスご利用者のうち、令和6年度に対象となる21名の方々を参加者全員でお祝いし、ご利用者の皆様やご家族様の笑顔あふれる、温かい催しとなりました。

皆様の益々のご長寿を願っております。



デイサービス



2024年やすらぎの郷デイサービスの思い出

Day
Service



年間を通して四季折々の行事に取り組み【新しい喜び】を
見つけていただけたような1年になりました。
たくさんの笑い声と賑わいが戻ってきて職員一同嬉しい限りです。
そんな1年を振り返るスナップ写真です。





第12回やすらぎの郷秋祭り



令和6年10月30日(水)に「第12回やすらぎの郷秋祭り」を開催しました。

残念ながら今年もご利用者様と職員での開催となりました。

まずは事務所有志によるマツケンサンバ。急遽の出演とは思えないほど息がぴったりで、日頃のチームワークの良さが伺えました。(オレイッ!!)

2番手はケアハウス相談員による「みんなで歌おう」「懐メロメドレー」。です。相談員の生演奏と澄んだ歌声にご利用者も思わず涙。素敵な合唱となりました。

3番手は東棟有志によるイリュージョン(マジック)ショーと炭坑節。手作りの大きな箱に職員が入り、次々に大剣をその箱に刺します。全て刺し終えた後、大剣を順に抜き箱の中を確認。中に入ったはずの職員は消え、代わりに現れたのは煤まみれの炭鉱夫。聞けば志免炭坑で採掘中だったとのこと。炭鉱夫を交えて皆さんで炭坑節を踊りました。

またこの日は特別なおやつとして、特養にはスイートポテトを、ケアハウスの方々には夕食に「にぎり寿司」を召し上がっていただきました。

今回も施設内のみでの開催で少し寂しい秋祭りとなりましたが、ご利用者の皆さんと楽しいひと時を過ごすことができました。早く以前のような盛大な秋祭りが開催できる日が来ることを願い、第12回やすらぎの郷秋祭りの幕が閉じました。



大阪・関西万博に 日本赤十字社が出展します!

令和7年4月大阪・関西万博が開幕となります。

「人間を救うのは、人間だ。」をテーマに、日本赤十字社は国際赤十字・赤新月運動館を出展いたします。世界の人道危機、そこに立ち向かい、立ち上がる人々の姿を描くヒューマンストーリーを、没入感の高い半球型ドームシアターで上映し、赤十字の使命と、人間のチカラを感じていただける「パビリオン体験」も体験いただけます。

万博出展にあたり、特設サイトも開設されておりますので、ぜひご覧ください!

▶ 出展期間 令和7年4月13日(日)～10月13日(月)

▶ 開催場所 大阪 夢洲(ゆめしま)

▶ 特設サイト https://expo2025.jrc.or.jp/?utm_source=branch&utm_medium=bnr&utm_campaign=expo2025



日本赤十字社福岡県支部
特別養護老人ホーム

やすらぎの郷

〒811-2208 福岡県粕屋郡志免町大字吉原600番 TEL.092-936-2022 FAX.092-936-2135
ホームページ <http://yasuraginosato.org/cgi-bin/index.cgi>

令和7年1月発行